

東京鷹桜同窓会報



ご挨拶

会長 守谷次郎 (昭和 38 年卒)



会員の皆様には、益々ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

東京鷹桜同窓会の運営につきましては、日頃からご理解と、ご協力をいただき心から御礼申し上げます。お陰様で同窓会の運営も滞りなく進捗致しております。

今年、母校は創立 97 周年を迎えます。東京鷹桜同窓会は母校創立 60 周年 (昭和 55 年) を記念として設立されてから 37 周年になります。記念すべき第 1 回の総会には約 300 名の会員が集いましたが、以降段々と出席者数が減少し、ここ数年は 80 ～ 90 名という状況です。95 周年記念同窓会名簿によると関東地区の同窓生は 2,843 名ですが、東京鷹桜同窓会員数は約 1,100 名であり、年齢別構成を調べますと 60 歳未満 (昭和 51 年卒以降) の会員は全体の 1 割強で 126 名にすぎません。

6 割強は 70 歳以上 (昭和 40 年卒以前) の方々です。

同窓会入会式はいつから始まり、また、その理由については明らかではありませんが、結果からみて入会は母校卒業生の半ば義務化になっているものと思います。この義務化によって同窓会はどう変化があるのか。

確かに言えることは入会金の徴収により本部の安定的財源になっていると思いますが、式で評議員等を決めても、必ずしも総会等同窓会活動に関わる会員が増えたとの話につながっていないのではないかと。同窓会活動に対する関心を引き出すきっかけにはなっていないのです。各支部の会員増の期待にも応えていない。幸い東京支部に対しては関東地区に進学等する新卒者に対し支部の紹介と入会勧誘をしていただき、応答者は数名ですが、実績は上がっていると言えます。

同窓会の目的は「会員同士の相互親睦」が主であり、従として「母校の支援」がありますが、それぞれの時代は変わっても母校で三年間、青春の一時期を過ごした共通項を基に老若の集いを盛んにしたいものである。

“まんず、試しに寄っておごやいっし”

感動の渦に包まれた支援コンサート

鷹桜サロン主催

コンサート実行委員長 工藤美知尋（昭和41年卒）

われわれの母校である山形県立長井高等学校は、2020年にめでたく創立百周年を迎えます。長井の同窓会本部では、同窓会館の改修工事や校旗の新調、百周年記念史などの費用として、約7000万円にのぼる多額の予算を計上しています。今年6月には、前倒して校旗が新調されました。これにかかった費用は200万円です。



百周年記念事業に要する費用は、会員から一人あたり約5千円を特別に徴収することによって当てることになっています。

私は、母校の百周年にちなんで、この際同窓会全員が参加でき、心が一つになるイベントが欲しいと思って、このたびのコンサートを企画しました。

このような思いの下に、6月8日（木）、東京オペラシティ3Fの「近江楽堂」における「八木りん木星音楽団+望月成美（藤原歌劇団ソプラノ歌手）」のコンサートが開催されました。ここのコンサートホールは定員120名と非常に狭いのですが、音響がよく、小規模のコンサートにはぴったりのホールです。当日昼夜2回にわたって行われたコンサートは、いずれも満員盛況でした。特に夜の公演では、拍手が鳴りやまず、2回にわたるアンコールの後、全員で『広い河の岸辺』を合唱するほどの盛り上がりでした。

3月13日のチケット販売開始から、わずか1か月にして、昼の公演のチケットは完売し、夜の方も開催2週間前には完売しました。チケットのお申し込みをお断りしたことも10回以上ありました。

これまでお目にかかったことがないOB・OGの皆様方からもチケットの代金のみならず、ご寄附やカンパ金を頂きましたことは、主催者を大いに勇気づけるものでした。と申しますのは、このコンサートは予備費がない中で開始されましたので、万が一赤字が出た場合には、主催者がすべて背負い込まなければならなかったからです。

今回のコンサートの成功は、今後の東京鷹桜同窓会の活動の多様な在り方を暗示しています。今まで同窓会は、10月第4週の土曜日に総会を開催することを第一として活動して来た訳ですが、今後は会員のご希望を勘案して、いろいろなイベントを企画すれば、新たな絆が生まれる事を示しています。



最後に今後のコンサート予定を記して、感謝の念に代えたいと思います。大変ありがとうございました。来年のコンサートでも多数の皆様方のご来場を心からお待ち申しあげております。

【今後の予定】

- 2017年10月14日（土）16:00～、長井市市民文化会館（八木りん木星音楽団+ゲスト竹田恵子）
- 2018年6月8日（金）①14:00～、②18:30～、東京オペラシティ近江楽堂（八木りんチェロバンド+文屋小百合（二期会ソプラノ））
※チケット売り出し 2018年3月13日から
- 2018年9月29日（土）14:00～、（予定）（八木りんバンド+ゲスト望月成美（藤原歌劇団ソプラノ））長井市タスホテルホール（市民文化会館は改修工事のため2年間使用不能となる）



首都圏に「ふるさと長井会」が誕生

ふるさと長井会会長 安部 浩（昭和36年卒）



長年待ち望んでいた、首都圏に「ふるさと長井会」の創設、昨年10月に東京で開かれた設立総会で実現に至りました。長井会の誕生にあたって、皆様から多大なご協力と支援を賜りましたことに、感謝申し上げます。昨年の7月に長井で開かれた、ふるさと長井しあわせ応援大使・サポーター意見交換会で、設立することを決定して以来、設立のための協力者の推薦、会員の募集、会の名称、役員の選任など諸々の準備を進めて参りました。短い準備期間にもかかわらず、会員数は設立総会時で363名に、本年5月で419名に達しました。この中に、鷹桜同窓会から入会された会員数が半数に近い193名含まれています。当日の総会は、150余名の会員が出席して開かれ、満場一致で長井会の創設が承認されました。鷹桜同窓会会員の皆様のご理解とご支援、並びに会員募集の際にご協力いただいた本部同窓会長勝見英一郎氏に、改めて謝意を表し、お礼を申し上げます。

長井会は、会員相互の親睦を図り、ふるさと長井との交流や情報交換を密にして、長井市の発展に寄与することが目的であり、首都圏に在住する長井市出身者、または市に係わりがあり、会の目的に賛同する会員が集う組織です。活動は、(1) 総会や交流会などを通して、会員相互の親睦・交流を図る「総務・広報部」、(2) 出前授業や講演会などを通して、長井の子どもたちの健やかな成長に寄与する「子育て・教育部」、(3) 長井からの情報提供を通して、交流・発展に寄与する「観光・移住部」、(4) 長井の産業PRや首都圏との産業交流を通して、産業の発展に寄与する「産業部」、そして(5) 次世代を担う人材育成を通して、長井の将来に寄与する「青年部」、以上5つの事業をメインに行っています。2月に会報「ふるさと長井会」創刊号が、長井会事

務局（長井市総合政策課）から発行されました。

ところで、山形県人東京連合会をご存知の方も多いいと思います。首都圏に所在する山形県出身者の団体会員で構成する組織で、現在の加入団体数は62団体、県人祭りをメインイベントに、ふるさと訪問、家族慰安芋煮会、芸能人山形県人会など活動範囲が多彩です。歴史も長く、来年創立80周年を迎え、記念のプライベートが既に実施されています。この4月下旬に実施されたふるさと訪問に、4月21日オープンしたばかりの、長井市観光交流センター「道の駅 川のみなと長井」が、訪問ルートに組み込まれたようです。連合会に加入することによって、長井会の今後の発展や会員相互の活動範囲の拡大が期待できることから、連合会への加入手続きを進め、4月から会員になりました。

さて、大正9年に開校したわが母校、3年後に100周年を迎えるにあたって、記念事業の準備が進められています。これを踏まえ、東京鷹桜同窓会では鷹桜サロン・工藤美知尋副会長を実行委員長に、同窓生である八木倫明さんと望月成美さんの協力を得て、「長井高校創立100周年記念事業支援コンサート」を開き、収益金を記念事業に費やす企画が進められています。長井会会員に、コンサートへのお誘いをご協力をお願いしたところです。6月初演を皮切りに、2年間に4回開催される支援コンサートが、成功裡に終わることを祈ります。

最後に、すばらしい自然の中で生れ育った「長井の心」は、世界の宝であると誇りにしていた、わが故郷が生んだ著名な彫刻家、東京鷹桜同窓会初代会長である、長沼孝三先生は、昭和55年に母校が創立60周年を迎え、種々の記念事業が挙行されたとき、東京鷹桜同窓会も心からの喜びを、大勢の会員と共に祝賀できたことが、この上もなく素晴らしいことだったと思うと、翌年発行の東京鷹桜同窓会報で述べられています。それから40年の歳月が流れて、母校は100年の歴史を飾ろうとしています。母校の発展と記念事業のご成功を祈り、さらに、同窓会と長井会の相互交流が、自然豊かな長井の発展に繋がることを期待して、会員の皆様のご協力とご支援をお願い申し上げます。



長井高校と法政大学で学んだこと

愛智出版 代表取締役 丸川 満 (昭和39年卒)



今から4年前の平成25年5月、家内の実家で法事があったので久しぶりに里帰りをしてきました。せっかくなので高校の担任の恩師、水野多門先生宅におじゃましてきました。先生も奥様も大変お元気で、間もなく古希にならんとする私も、まだこれからだと大いに英気を頂くことができました。

午後からは中学の担任の恩師、吉田秀先生を訪ねました。水野先生の御子息も吉田先生の教え子とのこと、世間は広いようで狭いものです。吉田先生宅にお伺いして、積もるお話も一段落した時、先生は応接間に掲げられた斎藤茂吉の歌碑の掛軸を指差しながら、その歌を吟じて下さいました。

陸奥^{みちのく}をふたわけ^{そび}ざまに聳えたまふ

蔵王の山の雲の中に立つ

抑揚のきいた先生のお声は、何十年経っても感動的でした。その昔、ひとの心にぐっと迫ってくる文学の力に目覚めながら、私は長井高校で図書委員になり、さらに文学への憧憬を深くしていきました。

毎朝 JR 長井線の鮎貝駅から南長井駅まで利用し、学校に着いたら事務室で図書館の鍵を預かり、司書の波多野先生が出勤されるまで図書館で時間を潰しました。それから教室に戻り、また放課後は図書館で過ごし、それが高校生活の毎日でした。

当時、図書委員の活動は皆無でしたが、図書の貸し出しと記録・統計、読書感想文、それらの情報を伝える図書館新聞の発行を始めました。当時、米沢商業の図書館新聞が優れていましたが、それに負けないものをと志しました。館長の後藤秀夫先生も、全面的に私に任せて下さったので、長井高校図書館新聞などの名称ではなく『リーディングタイムズ』という洒落た名前を付けました。割付が短時間で簡

単にできるように、特製の原稿用紙も作ってもらいました。実は、この時の経験が後で私の人生の礎になるとは、全く想像できませんでした。

昭和39年、あの東京オリンピックが開催された年に、私は文学をもっと深く学んでみたい気持ちが強くなり、上京したら何とかやれるだろうと、余り深くは考えず東京教育大学文学部を受験することにしました。上京して兄の下宿先に転がり込んだのですが、受験前に「おまえも今後、東京で生活していくなら、自分の力でやって行きなさい」と言って、読売新聞小石川柳町専売所で新聞配達をしながら大学へ行くように、一方的に話を進めてきました。

右も左も分からない東京で、受験勉強どころではない新聞配達、集金、その他の仕事を覚えることが始まったのでした。当然のことながら東京教育大学への受験は失敗しました。来年こそはと思って予備校に通うことにしました。駿台高等予備校の国立一期校コースを受験しましたが、倍率が2倍以上もあり予備校も難しいのかと心細く思いながら、ともかく合格して小石川柳町の都電停留所から水道橋駅まで都電に乗り、乗り換えて御茶ノ水駅まで行き、1年近く受験勉強に明け暮れました。もちろん新聞販売業に従事しながらです。

新聞販売店には、日本大学経済学部に行っているとか、中央大学法学部・Ⅱ部に行っているとか、二松学舎大学に行っているとか、あるいはシナリオ作家協会に行っている、競輪の選手をしているなど、いろんな従業員がおりましたが、彼らが本当に大学や組織・団体に在籍していたのかどうかは、当時でもわかりませんでした。ただ、山形の田舎から出て来た私でも、何とか大学と新聞販売業を両立させながら、自分の力だけでやっていけるのではないかと妙な自信が出て来たことは事実です。

ある時、販売店所長のS氏から歌舞伎座公演のチケットをもらい、初めて歌舞伎座に行きました。その時に観た有馬稲子と中村(萬屋)錦之介の共演をかすかに覚えております。もう半世紀以上も前のことです。またある時は、先輩のEさんが新宿の歌声喫茶「ともしび」に連れて行って受験勉強の息抜きをしてくれました。従業員旅行では、箱根に行ったり、社会勉強も徐々に増えていきました。

仕事の面では、読売新聞本社にお使いに出されて拡材（勧誘をする時の洗剤やタオルなど）を取りに行ったり、プロの拡張団を夕方から案内するなどの仕事もありました。従業員が突然姿を消してしまう事件も何回もあり、代わりに新聞を配達する仕事もありましたが、朝刊と夕刊の配達場所が違うとか、代配業務には順路帳に書き込むコツが重要でした。

こうして受験勉強の時間が減少したため、目標にしていた国立大一期校は途中で断念し、かと言ってコツコツ貯めた入学資金も少ないので、私立大学を一校だけ受験することにしました。日本文学を学ぶことができ、当時では入学金・授業料の最も少ない法政大学を選びました。何とか合格したことを掲示板で確認し、キャンパスを出た所で1枚のチラシを受け取りました。

それには「朝日新聞特別奨学生募集」とありました。内容は、朝夕の新聞配達と集金業務のみで私立大学の入学金・授業料を全額提供、住宅と朝夕の食事を提供、毎月給与も提供するという内容でした。

私はこのしっかりした制度でお世話になりたいと思いました。当時有楽町駅前にあった朝日新聞本社で面接を受け、私は港区の朝日新聞高輪専売所に配属されました。そこで4年間お世話になって法政大学文学部日本文学科を自力で卒業しました。

朝日新聞の販売業界で若きリーダーであった、高輪専売所の田窪英司氏が、親代わりで大学の事務へ一緒に来て入学金・授業料を納入して下さったことは、生涯忘れ得ぬ青春時代の思い出です。高輪専売所には、國學院大学、明治学院大学、早稲田大学、明治大学、立正大学などに通う同僚がいました。なお田窪氏はその後、朝日新聞みなと販売（株）を設立され、現在も代表取締役として幅広く活躍しておられます。

朝の配達が終わると、食事を済ませ大学へ行きました。高校時代の図書委員活動を経験した私は、大学の日本文学科学生委員会の編集委員会に所属し、「法政日本文学」（学生による評論集）と「法政大学文学部日本文学科学生委員会ニュース」の編集・



発行を手伝うことになりました。ところが6月頃、予期せぬ出来事が起こりました。編集委員長のN氏が行方不明になったのです。全体の委員長だったA氏から無理矢理に編集委員長として活動するよう言われました。大学1年生として本来の勉強もあり、新聞業務もあり、とても時間が足りない状況にありましたが、2年間、活動する羽目になりました。

日本文学科学生委員会室は、法大キャンパス内の六角校舎3階にありました。毎朝のように私はこの部屋に顔を出し、それから授業の聴講に出掛けました。

この六角校舎は現在取り壊されて消滅していますが、戦時中に小田切秀雄教授が反戦の砦を築いた所と伝え聞いた場所でした。小田切先生の近代文学の講義は実に新鮮なものでした。近代的文学観念・人間観を確立した明治期の北村透谷に始まり、戦後の作品に至るまでの縦横無尽な解説はまさに圧巻でした。夏休みの宿題に「島崎藤村の『夜明け前』

とドストエフスキーの『罪と罰』を比較検討せよ』というレポート提出を課され、暑い中、二つの大作に必至に取り組んだことを鮮明に覚えています。

第二外国語は仏語を選択しました。文法と読解を清岡卓行先生と古賀照一先生お二人に学びました。お二人とも詩人・作家であり、清岡先生は後に秀作『アカシアの大連』で芥川賞を受賞され、ペンネームが宗左近で著名な古賀先生は、詩集『藤の花』で詩歌文学館賞を受賞されました。

お二人とも魅力的な音韻で、しばしば優れた詩作品を朗読して下さいました。古賀先生は担任で、喫茶店で開いたクラス会にも気策に足を運んで頂きました。お二人の朗読を耳にし、ふる里の中学時代の恩師、吉田秀先生を思い出していたことを今でも思い出します。

3年になるとゼミの運営委員を担い、卒論の準備を始めました。大正文学を中心に学ぶゼミで、私は卒論に余り取上げられていない徳富蘆花に取組もうと思い、神田の古本屋で「蘆花全集 20巻」を買い求めました。しかし、田岡嶺雲の研究で著名なゼミの西田勝先生から、もっと思想の深みがある作家を取上げたらどうかというアドバイスで、宮沢賢治に取組みました。

「宮沢賢治論」を書くため、4年時には卒論に没頭しました。卒業してA出版社に入り、四半世紀前に独立し、地質学者、加藤碩一氏の力作『宮沢賢治の地的世界』、『宮沢賢治地学用語辞典』を刊行しましたが、まさに奇遇的な出版でした。

当時、国立大学では国文学・国語学と称していたが、法政大学では日本文学・日本語学と称していました。日本語学は、沖縄文学「おもろさうし」研究の第一人者、外間守善先生の講義でした。言語は都（みやこ：奈良・京都）から鄙（ひな：地方）

へ行くほどに原形が残っているという、柳田国男の「蝸牛考説」に大変興味を抱きました。外間先生には『日本言語学要説』、『日本言語史要説』の2冊をまとめて頂き、A出版社から刊行しました。

ただ、学生時代には社会的事件もたくさんありました。代表的なものにベトナム戦争反対運動と成田空港建設反対運動がありました。キャンパス正面には大きな立て看板が立てられ、中核・革マル・反帝学評など学生運動のセクト闘争が連日の如く朝から展開されました。

所属セクトの名前を書いたヘルメットを被り、マスク代わりに汚れたタオルをして、長い角材を持って激しい戦争ごっこを繰り返していました。時には、長椅子などが積み上げられ、バリケードが築かれました。かいくぐって校舎に入り外を眺めると、図書館棟の屋上から火炎瓶が次々に投げ落とされ、地上で炸裂して炎が大きく広がりました。あの時、大学の自治と学問の自由は最大の危機に直面していました。大学付近から市ヶ谷駅に至る道路には、機動隊の車がずらりと並んでいました。1年時から、あのような喧騒の中で日本文学の一端に触れることができたのは、まさに奇跡的でした。

来年3月でプロの出版の道を歩んで丁度50年になります。長井高校で「リーディングタイムズ」を編集した経験が、その原点であり礎になったことを思うと感慨深いものがあります。

昨今の止まるところを知らない活字離れは、当時は全く想像できなかった現代社会の現象で、価値観の多様化や人生観の相違には、実に複雑な気持ちになっております。

工藤美知尋著 (S41卒)

『軍医大尉桑島怨一の悲劇』
—われ上海刑場の露となりしか—
潮書房光人社 ¥1,800 (税別) 2016年5月

『特高に奪われた青春』
—エスペ란ティスト斎藤秀一の悲劇—
芙蓉書房出版 ¥1,800 (税別) 2017年8月4日刊行


全国の書店・Amazon・楽天などで絶賛発売中

地元の食材と調味料に
こだわり続ける。
山形牛をはじめ
郷土料理と
銘酒が愉しめる店

も一吉

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-10
TEL 03-5261-2128
マスター 安部俊彦 (昭和46年卒)

東京メトロ南北線飯田橋駅B3口 徒歩1分
JR飯田橋駅 西口 徒歩3分



西国三十三所巡礼を訪ねて

藤田 健二（昭和43年卒）

高校を卒業し、仙台にて4年間楽しい大学生活を送りました。勉強はしない学生ながら、希望の重工会社に入社できました。国立大学にて「早く卒業し世のために働け」と無理やり卒業させられた印象があります。会社は横須賀の浦賀にあり、それ以来横須賀に住んでおります。父の海軍入隊した所が今も海上自衛隊基地がある横須賀の田浦であり、横須賀に縁があったのかも知れません。二歳上に兄がおりましたが、兄・志郎は平成27年12月に亡くなり、長井で告別式を行いました。兄は、高校卒業後はほとんど長井には戻っていませんでしたが、同窓の方々や知合いの方々大勢にご会葬頂きました。紙面を頂き御礼申し上げます。兄は、40代後半より糖尿病に掛かり、大分重くなっており低血糖症にて倒れたまま亡くなりました。単身赴任先にて発見が遅れた事は残念でした。営業畑一筋に人一倍仕事が好きで頑張り屋でしたが、大変我儘な方であり好き放題に生きた悔いのない人生であったと思います。



私は会社では製鉄所の設備を担当し、設計を15年、その後製造、現地SV、企画管理から営業部門と一通りの業務を経験しました。2000年に四国にて関係会社を立ち上げて4年ほど単身赴任となりました。月一度横須賀に戻る際、途中下車をして京都や奈良など古都を訪ねる旅が楽しみとなりました。寺社、美術館、古い町並みや酒蔵などを訪ねる旅です。特に寺は日本文化の基軸であり、皇族・貴族が育て庶民が依拠し守ってきました。大好きな日本の歴史、伝統や美術を辿るには、古寺の拝観が相応しく五木寛之や敬愛する白洲正子の著作にも後押しされ各地の古寺を拝観するようになりました。日本人は信仰心が薄いと言われますが、本来は信仰心が厚い民族なのでしょう。仏教を抜きに日本は語れません。歴史を辿ると江戸時代に日本仏教は幕藩仏教化しましたが、平安中期より室町時代にかけて仏教は民衆に溶け込み助け導くものとなりました。それら時代に創建されて長い戦乱の時代を民

衆に守られてきた古寺が信仰と巡礼の寺として続いています。西国三十三所観音霊場では、京都の清水寺、奈良の長谷寺や近江の三井寺などの大寺は度々訪ねていましたが、西国巡礼の中興の祖である花山法皇の一千年御遠忌にあたる2008～2009年の結縁開帳に合わせて、納経帖を携えて一番札所・熊野の青岸渡寺より巡礼を始めました。

麓の大門より苔むした石段を5百段ほど上り、本堂本尊を拝観し那智大社、三重塔と那智の滝を巡り、自然崇拜、神仏習合、古美術品や庭園などの日本の文化が生きている西国巡礼に一瞬で魅せられてしまいました。各札所では、もう二度と機会が得られないであろう秘仏を拝観し、それを拝もうとする人々の熱気に感嘆しました。都より遠い地方に名刹札所も多く、三番・粉河寺、二十七番・書写山円教寺、



二十八番・成相寺や三十番札所・竹生島宝巖寺などが印象深い素晴らしい寺院でした。西国三十三所は観音浄土であり、民衆の諸難を救済し諸願を叶える霊場であります。各札所は、那智の滝、琵琶湖、河川に臨み、更に清水伝説など水の豊かな浄土にあります。三十三所は車で行ける札所がほとんどですが、山に建立された寺院が多く、階段がきついのも特徴です。上醍醐とか施福寺とかの難所も残っています。地域も広大ですが、日本文化を感じ信仰心を深めたい、また体力と時間がある方は是非巡って頂きたいと思います。西国巡礼は、皇族や貴族のものであった仏教信仰・観音の慈悲を庶民のものにする事によりさまざまな危機を乗り越えて存続してきました。天台、真言や奈良仏教の寺院がほとんどであり、鎌倉以降の新仏教寺院はありません。西国三十三所巡礼は日本の神仏信仰と文化の一つに過ぎないとも言えますが、一つ一つ札所を巡ることで、長い庶民信仰の形・現世利益への祈りや浄土への憧れが奥底まで感じられる道です。

母校のありがたさ

ケーナ奏者／作詞家
八木倫明（やぎりんめい 昭和51年卒）



長年「母校」というものを意識することなく生きていた。愛着が足りなかった。オーケストラの事務局やクラシック音楽の事務所や出版社など、29年間仕事をしたクラシック音楽の世界を離れて、民族楽器でフリー音楽家になったのは2011年春、あの大震災のころ。

自分の人間力だけで生きていかななくてはならない。心の中は不安がいっぱい。かすかな希望は《The Water Is Wide》という良い歌に出遭って、それを《広い河の岸辺》として訳して自分のグループで歌い始めたということ。何かの形できっと世に出る歌だという確信。

被災地に出かけ、避難所や仮設住宅集会所などでこれを唄った。お客様もすぐに覚えて一緒に唄って下さった。フリー音楽家になって、被災地ボランティアをしているボクのことを知って強力に応援してくれたのは、長井高校の同級生、芳賀道也くん（YBC）だった。同じクラスになったことない芳賀くんが、フリーの音楽家として生き始めたボクの苦境を忖度してくれて、山形市でボクのコンサートを開き、たくさんの同級生を集めてくれた。

2013年の秋、東京鷹桜同窓会でのアトラクション演奏の依頼を受けた。母校への恩返しをするきっかけになると思い、ボランティアの演奏を引き受け、共演ハープ奏者には、自分で薄謝を払った。母校の先輩方の中に、ボクを応援して下さる方々も現れたので、久しぶりに同窓会に出席して本当に良かった。

母校百周年に記念碑を贈ろうという主旨でボク

の木星音楽団の演奏会が今年6月に東京で開かれ、10月には長井公演がある。文化に理解のある母校の先輩方に出会えたおかげだ。長井高校で良かった。

広い河の岸辺 スコットランド民謡
The Water Is Wide Scottish Traditional
Moderato 八木倫明訳詩

1. 4. 河は広く 渡れぬい
2. 愛のはじまりは 美しく
3. ふたりの舟は 沈みかける
船でゆく うばもな
やさしく 花のよう
愛の重さには たえきれず
(挿入)もし小舟か あるならほ
時のはがれに 色あせて
沈み方も 泳ぎかたも
こはそら ふたりで
朝つゆと 遊んでゆく
知らぬい このあたし

八木倫明 (ケーナ奏者 YAGI RIMEI)
作詞家: やぎりん
事務所: 「地球音楽工房」
〒171-0052 豊島区南長崎 3-10-5-207
TEL & FAX (03) 6759-3297
080-5379-4929

2010.1.1 光栄に



長井市アンテナショップ 長井市東京事務所

(一財)置賜地域地場産業振興センター
東京事務所

〒144-0051
東京都大田区西蒲田8-3-6橋本ビル1F
TEL/FAX 03-6424-7860

イーグル会 第11回 ゴルフコンペ

須藤 勝味 (昭和46年卒)



五月晴れの5月17日、人気のゴルフ場南総カントリークラブ西コースにて15名が参加して開催された。初参加は桑島寛之さんと沼澤さおりさん。丘陵コースで林にセパレートさ

れフェアウェーが広く伸び伸びプレー出来る幹事(前回優勝者)遠藤芳作さんお奨めの本当に良いコース。セルフプレーながら、最近の乗用カーターのナビが秀逸で、目標への距離やピンまでの残り距離等わかりやすく表示され、スコアの入力も出来とても便利で進化している。

また、開催が11回目ともなると参加者の過去の実績が



蓄積、戦績や個人の入賞歴、アベレージ等一目瞭然にデータ化(大滝二三夫さん提供)され、奮起や挑戦意欲をかき立たせるのに役立っている。

優勝は大滝二三夫さん、準優勝は土屋年彦さん。実力者が順当に上位を占めた。ベスグロは最年長遠藤芳作さんで89ストローク。エイジシュートに3打及ばなかったがお見事というほかはない。次回は11月に神奈川県下にて開催予定。

“和気藹々と愉しく”がモットーのイーグル会に皆様お気軽に参加しませんか。お待ちしております。

広報ながい 2017. 7. 1 から転載

小学生全員で桜を元気に 伊佐沢の久保ザクラ樹勢回復作業

国指定天然記念物「伊佐沢の久保ザクラ」の樹勢回復作業が6月13日、同所で行われました。この作業は、平成18年から続けており、伊佐沢小学校



の児童も参加しています。

今年は初めて1年生から6年生までの全校児童が樹木医の先生や伊佐沢桜会、地元関係者などと一緒に作業を行いました。桜の樹勢回復のためには、土壌を肥やし根を伸ばすことが良いとされており、根の成長に良い環境を作る作業を行いました。この作業を毎年継続していることにより、新しい枝や根が出るなど回復の兆しが見えてきています。

乃木坂歯科クリニック

院長 藤野瑠男
藤野由美子 (昭和43年卒)

〒107-0052 港区赤坂9-5-26/パレ乃木坂202
TEL 03-3404-9838

年に1回は、歯のチェックを!

平成 28 年

総会・懇親会レポート

副学年幹事長 井澤 小一（昭和45年卒）



平成 28 年 10 月 22 日（土曜日）「レストランアラスカ、日本プレスセンター店」において、総会・懇親会が開催されました。最寄りの駅から近く、最上階（10 階）に位置し、眼下に日比谷公園を見下ろすことができます。店内は天空 15 メートルの巨大なドームになっていて音響がよく高尾 三世子（44 年卒業・合唱部卒）さんのミニコンサートも楽しむことができました。卒業年度毎にほぼテーブルを囲み、初めての参加でもすぐに打ち解けることができます。会場入り口には長井のアンテナショップが懐かしい味のお出迎えです。玉こんにゃくや鯉の甘露煮などが並んでいました。また、今回は卒業生の執筆した図書も並び、先輩の偉業に触れる貴重な機会ともなっていました。

大野副事務局長の進行で総会が始まりました。佐藤副会長の開会の辞に続き、守谷会長の挨拶があり、沼澤 幸雄様（44 年卒）の議長のもと、スムーズに議事が進行しました。全ての議案は承認され、福田副会長の閉会の辞で無事総会は終了しました。参加者全員で記念写真を撮影し、小休止です。

12 時過ぎ、懇親会が始まりました。司会進行は、井澤学年副幹事長と浅野副事務局長の 2 人でセレモニーと懇談の部に分けて行われました。工藤副会長の開会の辞のあと、同窓会本部の平淳子副会長、母校の佐藤 広行校長、長井市の遠藤 健司副市長の来賓からご挨拶をいただきました。本部事務局長の

安部直志様と恩師の草刈 隆二先生のご紹介がありました。草刈先生には懇談の部でご挨拶をいただきました。

乾杯は発声を昭和 20 年・長井高等女学校卒の中島コウ様が元気に行ってくださいました。この後は和気藹々の楽しい時間の始まりです。皆さん高校生に戻って話題には困りません。面と向かっているのは高校の友です。現実とのギャップもなんのその。タイムマシンに乗って当時の話に花が咲きます。もう、司会の言葉も耳に入りません。それでも、各卒業年度ごとのお話には聞き耳を立てている方も。途中で、高尾さんの紹介があり、プロ顔負けのミニコンサートが入りました。

会の終盤には今 学年幹事長の指揮で高尾様と臨時の合唱部の皆様のリードで校歌を全員で合唱しました。さらに、絆を深めるために、宍戸 康男様（44 年卒）のエールとさらに沓澤 昇様（31 年卒）の



エールを頂きました。さらに、この後、自由参加の神楽坂の「も一吉」でさらに盛り上がったのは言うまでもありません。

皆さん今年は 29 年 10 月 28 日（土）11:00～です。お一人でも多くの同窓生の皆様に参加頂けるよう役員一同、案を出し合いました。総会・懇親会に加えて、講話を計画しました。今年は佐藤副会長に「南極から見える地球の健康状態」と題し講演いただきます。南極関連資料や南極の氷も皆さんに提供できそうです。是非お誘いあわせて参加ください。お待ちしております。



学年幹事を求めています

学年幹事長 今 憲行(昭和43年卒)



「学年幹事会」の役割は「役員会」で話し合われた予算、事業、などを議論、承認しアイデアを出し合いながら「総会」へと道筋を作る大事な場となっております。

年2回の幹事会は冒頭出席された方の「自己紹介」が貴重な情報交換を兼ねています。自宅菜園の出来栄え、

味わう旬の紹介から、健康・趣味の秘策・近況、そして流れるままに、日々過ごされているお話など、バラエティに富んでいます。

一方、学年幹事会の悩みは幹事が空白の卒業年次があったり、若手などなかなか増えない事です。

お願いになりますが、ぜひ他薦、自薦で結構ですのでご連絡お待ちしております。

同窓会を支える柱でもある学年幹事会、頑丈でしなやかに長続きしたいと思います。この場をお借りして現幹事の方への感謝と共に会員の皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

学年幹事の皆さん

(平成29年6月1日現在)

卒年	名前	卒年	名前
昭21中	大竹修一	昭42高	宮崎正義
昭28高	安部策夫	昭43高	鈴木木勉
昭28高	新田正	昭44高	完戸康男
昭29高	鱈淵康彦	昭44高	沼沢幸雄
昭30高	片倉新治	昭44高	丸川元
昭31南	小形正明	昭45高	中田啓子
昭31南	青木清	昭45高	荘司信明
昭32南	高世英夫	昭46高	樋口利美
昭32南	難波俊子	昭46高	安部俊彦
昭33南	羽田聰子	昭46高	桑島寛之
昭34北	武田律子	昭46高	竹田英也
昭36南	飯沢武	昭47高	竹田茂
昭36南	末吉暁子	昭47高	中萩真知
昭36北	海老名信子	昭48高	鈴木俊彦
昭37南	荒生保男	昭49高	遠藤剛
昭37南	大滝二三夫	昭49高	那須優則
昭37北	石井宏子	昭51高	八木倫明
昭37北	大島陽子	昭51高	高橋美恵子
昭38南	影山勝範	昭51高	北村成子
昭38南	中本恵美子	昭52高	阿曾亮子
昭38南	鈴木仁	昭53高	高橋直樹
昭39南	新野昭彦	昭57高	高橋好則
昭39南	丸川満	昭57高	佐野勝彦
昭40高	黒沢輝夫	昭57高	沼澤秀雄
昭41高	前司憲行	昭58高	鈴木祐子
昭41高	菊地淳二	昭59高	菅野和彦
昭41高	滝沢久	昭63高	青木昌智
昭41高	丸山安子	平04高	井上博司
昭41高	小口英吉	平11高	手塚多美子

平成28年度活動報告・決算報告および平成28年度予算

《平成28年度事業報告》

H28.06.28	(本部)総会・集いの会、工藤副会長出席
H28.07.09	会計監査会(婦選会館)
H28.07.09	役員・事務局会議(婦選会館)
H28.08.10	会報第35号発行
H28.09.10	役員・事務局会議(婦選会館)
H28.09.10	学年幹事会(婦選会館)
H28.10.01	役員・事務局会議(婦選会館)
H28.10.22	総会・懇親会(レストラン アラスカ)
H28.11.18	(本部)支部連絡協議会、佐藤副会長出席
H29.01.25	(本部)母校100周年記念事業実行委員会、守谷会長出席
H29.01.28	役員・事務局会議(婦選会館)
H29.02.25	役員・事務局会議(婦選会館)
H29.03.01	(本部)同窓会入会式、工藤副会長出席
H29.04.08	役員・事務局会議(婦選会館)
H29.04.22	(本部)幹事会、今学年幹事長出席
H29.05.13	学年幹事会(婦選会館)

《一般会計》

(平28.6.1~平29.5.31) 単位:円

収入の部	予算額	決算額	差異
年会費	270,000	255,000	15,000
懇親会費	780,000	688,000	92,000
寄付金	285,000	368,000	▲83,000
本部助成金	13,000	13,000	0
会報広告収入	20,000	23,000	▲3,000
雑収入	0	0	0
前期繰越金	394,186	394,186	0
(収入合計)	1,762,186	1,741,186	21,000
支出の部	予算額	決算額	差異
総会費	270,000	269,509	491
懇親会費	690,000	583,662	106,338
会議費	70,000	38,787	31,213
名簿管理費	30,000	18,850	11,150
通信費	42,000	44,799	▲2,799
広報費	100,000	110,766	▲10,766
支払手数料	35,000	31,172	3,828
消耗品費	20,000	15,250	4,750
本部派遣費	75,000	74,294	706

編集後記

今年度の会報の最大の目玉は、大盛況のうちに終了することが出来た6月8日東京オペラシティ内「近江楽堂」で行われた母校百周年記念事業の支援を目的にした八木りん木星音楽団とジョイントした【広い河の岸辺コンサート】の様子を掲載したことです。

今本部で考えている百周年記念事業は、ほとんどが同窓会館の改修を第一にしており、OB・OGが共に参加し祝う事の出来るイベントが乏しいと思っています。

ましてや関東圏に住んでいる我々としては、百周年記念事業に参加するという事は特別会費の支払い以外にはないのです。

こうした状況を踏まえて、かつての仲間・同級生同士の絆を取り戻したいと思い、企画したのが、今回のコンサートでした。

昨年秋【ふるさと長井会】が正式発足し、現在1800名以上の大組織に発展しています。初代会長に就任された安部浩氏には就任の抱負を書いて頂きました。

丸川満さんには、出版業をするにいたった高校時代の図書委員の時の思い出を、藤田健二君には、兄(志郎君)の思い出とともに現在の心境を、そして最後に、八木倫明君にはコンサート活動の雑感を書いてもらいました。(美)

編集委員会 委員長 工藤美知尋
発行責任者 会長 守谷次郎

東京鷹桜同窓会事務局

〒285-0813 千葉県佐倉市石川781-18 齋藤方
携帯 090-4749-3533(齋藤) 090-2623-3166(浅野)
E-mail siro-saito@hb.tp1.jp(齋藤)
onlysun@catv296.ne.jp(浅野)
ホームページ(アクセスは右のQRコードで...)
<http://tokyoyououdousokai.sakura.ne.jp/>



暑中お見舞い申し上げます

東京鷹桜同窓会役員会

会長 守谷 次郎 (S38卒)
副会長 佐藤 元保 (S37卒) 福田ふみ子 (S38卒)
工藤美知尋 (S41卒) 藤野由美子 (S43卒)
学年幹事長 今 憲行 (S43卒)
副学年幹事長 井澤 小一 (S45卒) 須藤 勝味 (S46卒)
事務局 齋藤 四郎 (S38卒)
副事務局 浅野 陽一 (S44卒) 大野 治雄 (S46卒)
佐藤 俊之 (S60卒)
監査 戸田 恵 (S38卒) 木村 清次 (S44卒)

予備費	430,186	19,620	410,566
次期繰越金	0	534,477	▲534,477
(支出合計)	1,762,186	1,741,186	21,000

《特別会計》 (平 28. 6. 1～平 29. 5. 31) 単位：円

収入の部	予算額	決算額	差異
雑入金	650	18	632
前期繰越金	2,359,279	2,359,279	0
(収入合計)	2,359,929	2,359,297	632
支出の部	予算額	決算額	差異
支出金	50,000	10,000	40,000
次期繰越金	2,309,929	2,349,297	▲39,368
(支出合計)	2,359,929	2,359,297	632

平成 29 年度収支予算

《一般会計》 (平 29. 6. 1～平 30. 5. 31) 単位：円

収入の部	予算額	前期予算額	差異
年会費	270,000	270,000	0
懇親会費	780,000	780,000	0
寄付金	350,000	285,000	65,000
会報広告収入	20,000	20,000	0
本部助成金	13,000	13,000	0
前期繰越金	534,477	394,186	140,291
(収入合計)	1,967,477	1,762,186	205,291
支出の部	予算額	前期予算額	差異
總會費	330,000	270,000	60,000
懇親会費	700,000	690,000	10,000
会議費	70,000	70,000	0
名簿管理費	30,000	30,000	0
通信費	50,000	42,000	8,000
広報費	110,000	100,000	10,000
支払手数料	35,000	35,000	0
消耗品費	20,000	20,000	0
本部派遣費	100,000	75,000	25,000
予備費	522,477	430,186	92,291
(支出合計)	1,967,477	1,762,186	205,291

《特別会計》 (平 29. 6. 1～平 30. 5. 31) 単位：円

収入の部	予算額	前期予算額	差異
雑入金	20	650	▲630
前期繰越金	2,349,297	2,359,279	▲9,982
(収入合計)	2,349,317	2,359,929	▲10,612
支出の部	予算額	前期予算額	差異
支出金	50,000	50,000	0
予備費	2,299,317	2,309,929	▲10,612
(支出合計)	2,349,317	2,359,929	▲10,612